

## プログラム及び参加者紹介

## プログラム

**9月14日(水)** (議長：林 吉永 防衛研究所戦史部長)

### オープニング・セッション

- 1030～1035 開会挨拶 河尻 融 (防衛研究所長)
- 1035～1045 開会に寄せて 守屋 武昌 (防衛事務次官)
- 1045～1100 議長からの趣旨説明 (発表者の紹介等)
- 1100～1130 基調講演 大村 平 (元航空幕僚長、元空将)  
「日本の戦争とエア・パワー—歴史的視点から考えた今日的インプリケーション—」
- 1130～1200 特別講演 フィリップ・セイビン (英国、ロンドン大学キングス・カレッジ教授)  
「エア・パワーの最初の世紀と技術、文化、その軍事的有用性」
- 1200～1330 昼食休憩

### 第1セッション

- 1330～1400 発表 ウィリアムソン・マーレー (米国、オハイオ州立大学名誉教授、米防衛分析研究所研究員)  
「エア・パワーの誕生と発展 1900～1945年」
- 1400～1430 発表 柳澤 潤 (防衛研究所戦史部第1戦史研究室所員)  
「日本におけるエア・パワーの誕生と発展 1900～1945年」
- 1430～1450 休 憩
- 1450～1510 コメント 庄司 潤一郎 (防衛研究所戦史部第1戦史研究室長)
- 1510～1540 コメントへの回答
- 1540～1700 第1セッション総合討議

**9月15日(木)** (議長：林 吉永 防衛研究所戦史部長)

**第2セッション**

- 0930～1000 発表 ベンジャミン・ランベス (米国、ランド研究所上級研究員)  
「米国とエア・パワー」
- 1000～1030 発表 志方俊之 (帝京大学教授)  
「日本とエア・パワー―防衛政策及び軍事上の問題点とその解決方法―」
- 1030～1050 休 憩
- 1050～1110 コメント 源田 孝 (航空自衛隊幹部学校主任教官)
- 1110～1140 コメントへの回答
- 1140～1220 第2セッション総合討議
- 1220～1330 昼食休憩

**第3セッション**

- 1330～1400 発表 マティティアフ・メイツェル (イスラエル、テルアビブ大学教授)  
「新しい戦争の時代におけるエア・パワーの役割」
- 1400～1430 発表 金 仁烈 (キム・インヨル) (韓国、韓国空軍大学校教授)  
「将来の東アジア地域戦略環境とエア・パワーの役割」
- 1430～1500 発表 石津 朋之 (防衛研究所戦史部第1戦史研究室主任研究官)  
「エア・パワーの将来と日本の国家戦略」
- 1500～1520 休 憩
- 1520～1540 コメント 山口 昇 (防衛研究所副所長)
- 1540～1610 コメントへの回答

**総合討議**

- 1620～1640 コメント 佐久間 一 (元統合幕僚会議議長、元海将)
- 1640～1725 総合討議・議長総括
- 1725～1730 閉会挨拶 山口 昇 (防衛研究所副所長)

## 参加者紹介

### 議長

林 吉永

現職： 防衛庁防衛研究所戦史部長

略歴： 防衛大学校卒業。航空幕僚監部総務課長、北部方面警戒管制団司令、第7航空団司令、航空自衛隊幹部候補生学校長等を歴任。1999年退官。空将補。同年4月から現職。

論文：“The Japanese Military Professionalism”、“Non-impact Has Brought Impact to the US from Japan since 1945”ほか。

### 基調講演者

大村 平

現職： (社)日本航空宇宙工業会顧問

略歴： 東京工業大学卒業。航空幕僚監部技術部長、航空実験団司令、西部航空方面隊司令官、航空幕僚長を歴任。1987年退官。その後、防衛庁技術研究本部技術顧問、お茶の水女子大学非常勤講師、日本電気株式会社顧問などを歴任。

著書： 『確率のはなしー基礎・応用・娯楽ー』ほか。

### 特別講演者

フィリップ・セイビン

現職： 英国ロンドン大学キングスカレッジ教授

略歴： 英国ケンブリッジ大学クイーンズカレッジ卒業、ロンドン大学キングスカレッジ大学院博士課程修了 (Ph.D.)、キングスカレッジ戦争研究学部助教授を経て現職。

著書・論文：*Non-Conventional Weapons Proliferation in the Middle East* (Oxford: Clarendon Press, 1993) (共著)、“The Shape of Future War: Are Traditional Weapons Platforms Becoming Obsolete?” in *Royal Air Force Air Power Review*, vol. 1, no. 1 (1998)、“The Future of UK Air Power,” “The Counter-Air Contest,” “Air Power in Joint Warfare,” “Air Strategy and the Underdog,” and “Western Strategy in the New Era: the Apotheosis of Air Power?” in Andrew Dorman, Mike Smith and Matthew Uttley, eds., *The Changing Face of Military Power: Joint Warfare in an Expeditionary Era* (Basingstoke, Hampshire: Palgrave, 2002) ほか。

## 発表者（発表順）

ウィリアムソン・マーレー

現職： 米国オハイオ州立大学名誉教授、米防衛分析研究所（IDA）研究員

略歴： エール大学卒業、空軍士官として東南アジアに従軍した後、同大学院修了（博士）。歴史学博士。エール大学歴史学部助教授を経て、1995年までオハイオ州立大学歴史学部教授。その間、ロンドン大学LSE客員教授、海兵隊大学校教授、陸軍大学校教授などを歴任。

著書： *Luftwaffe, Military Effectiveness* (共著)、*The Making of Strategy* (共編)、*The Dynamics of Military Revolution, 1300-2050* (共編)、*War in the Air 1914-45* ほか。

柳澤 潤

現職： 防衛庁防衛研究所戦史部第一戦史研究室所員

略歴： 防衛大学校卒業、上智大学大学院修了（修士）。空自飛行開発実験団、航空開発実験集団司令部などを経て、2004年から現職（三等空佐）。

論文： 「国際協調主義から世界制覇へー三枝茂智の外交思想（1919～1943年）ー」「重慶爆撃 1938～1941年ー日本初の戦略爆撃ー」ほか。

ベンジャミン・ランベス

現職： 米国ランド研究所上級研究員

略歴： ノース・カリフォルニア大学卒業、ジョージタウン大学修士課程修了、ハーバード大学博士課程修了、政治学博士。同研究所研究員を経て現職。

著書： *The Transformation of American Air Power* (Cornell: Cornell University Press, 2000)、*Mastering the Ultimate High Ground* (Santa Monica: RAND, 2003) ほか。

志方 俊之

現職： 帝京大学教授

略歴： 防衛大学校卒業、京都大学大学院博士課程修了。工学博士。陸上幕僚監部人事部長、第二師団長、北部方面総監を経て退官。

著書： 『極東有事』、『自衛隊はどこへ行く』（共著）、『「フセイン殲滅」後の戦争』ほか。

マティティアフ・メイツェル

現職： イスラエル・テルアビブ大学教授

略歴： ヘブライ大学卒、米国ロチェスター大学大学院博士課程修了。歴史学博士。ハーバード大学客員教授を経て、1972年からテルアビブ大学教授。その間ブリテイッシュ・コロンビア大学客員教授、オハイオ州立大学客員教授を歴任。

著書： *Generals and Revolutionaries*、*The Russian General Staff During the Revolution: A Study in the Transformation of Military Elite*、*The Campaign of the Golan Heights, June 1967* ほか。

金 仁烈 (キム・インヨル)

現職： 韓国空軍大学教授

略歴： 韓国空軍士官学校卒、韓国国防大学修士課程修了（国際関係論）。米国デンバー大学大学院博士課程（国際関係論）修了。韓国国防大学、韓国空軍士官学校教授を歴任の後、退役（退役空軍大佐）。

論文： “Role the Air Power in the 21st Century”、 “Security Environment and Air Power Strategy” ほか。

石津 朋之

現職： 防衛庁防衛研究所戦史部第一戦史研究室主任研究官

略歴： 獨協大学およびロンドン大学教養課程（ICC）卒業、ロンドン大学 SOAS 大学院修了（修士）、同 KCL 大学院修了（修士）。ロンドン大学 LSE 博士課程中退、オックスフォード大学大学院研究科修了。ロンドン大学 KCL 名誉客員研究員。防衛研究所助手を経て、2000年から現職。

著書： 『戦争の本質と軍事力の諸相』（編著）、『日米戦略思想史－日米関係の新しい視点－』（共編著）、『エア・パワー－その理論と実践－』（共編著）、*Pacific War Companion*（共著）ほか。

#### コメンテーター（登壇順）

庄司 潤一郎

現職： 防衛庁防衛研究所戦史部第一戦史研究室長

略歴： 筑波大学卒業、同大学院修了（修士）。1986年防衛研究所助手、その後所員、主任研究官を経て、1999年から現職。

著書： 『変動期の日本外交と軍事』（共著）、『大正期日本のアメリカ認識』（共著）、『日米戦略思想史－日米関係の新しい視点－』（共著）ほか。

源田 孝

現職： 航空自衛隊幹部学校主任教官

略歴： 防衛大学校卒業。一等空佐。兵器管制官、指揮幕僚課程、幹部高級課程及び統合幕僚学校特別課程修了。幹部学校戦略教官、防衛大学校教授を経て現職。

著書・論文：『エア・パワー—その理論と実践—』（共著）、「ポスト冷戦時代の米空軍戦略—ワーズデン大佐の航空戦略を基に—」ほか。

山口 昇

現職： 防衛庁防衛研究所副所長

略歴： 防衛大学校卒業。指揮幕僚課程修了、陸上幕僚監部防衛部防衛課防衛調整官、在米大使館防衛駐在武官、陸上自衛隊研究本部総合研究部長などを歴任。2005年より現職（陸将補）。その間タフツ大学フレッチャー法律・外交大学院修士課程修了（国際関係論）、ハーバード大学オリン戦略研究所客員研究員。

著書・論文：『日本の安全保障とは何か』（共著）、「冷戦終結後における米国防政策の変遷」、「政治における軍事の研究—ベトナムから湾岸へ—」、「Japan's Future Security Role」ほか。

佐久間 一

現職： NTT 東日本特別参与

略歴： 防衛大学校卒業。海上自衛隊幹部学校長、佐世保地方総監、海上幕僚長、統合幕僚会議議長などを歴任。1993年退官。海将。1999年から現職。

エア・パワーの将来と日本—歴史的視点から—

平成 17 年度戦争史研究国際フォーラム報告書

発行日 平成 18 年 3 月 31 日

編集・発行 防衛庁防衛研究所

〒153-8648

東京都目黒区中目黒 2-2-1

電話:03-5721-7005

FAX:03-3713-6149

E-mail:planning@nids.go.jp

ISBN 4-939034-29-1

© 無断転載を禁ず